

ハトムギ「はとひかり」(はとむぎ農林2号)の育成経過と主要特性

石田 正彦・加藤 晶子・千葉 一美

(東北農業試験場)

Breeding Process and Characteristics of a New Job's Tear Cultivar "Hato Hikari"

Masahiko ISHIDA, Masako KATO and Ichimi CHIBA

(Tohoku National Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

西日本におけるハトムギ栽培は岡山県の在来種である「岡山在来」が主力品種として作付けされていた。「岡山在来」は草丈が高く、着粒層が広いためにコンバイン収穫が難しく、また晩生種のため中国地方の中・山間地では未成熟に終わり、生産が不安定であった。このため「岡山在来」の欠点を改良した新品種の育成が要望され、東北農業試験場では1992年に「はとむすめ」を育成したが、この品種は小粒で、品質面で不満があった。

1995年8月にハトムギ「農林2号」として農林登録された「はとひかり」は、「はとむすめ」の品質面の欠点を補う新品種である。「はとひかり」は成熟期が中生の晩に属し、粒が大きく多収である。また、外観品質や加工適性及び機械収穫に優れるため、中国地方の中・山間部に適した新品種として期待されている。そこで、本品種の育成経過と主要特性について報告する。

2 育成経過

「はとひかり」は「岡山在来」の早生・短稈・難脱粒化を目標に東北農業試験場栽培第一部作物第2研究室(現水田利用部・秋田県大曲市)が1980年、農業技術研究所放射線育種場において「岡山在来」の気乾種子に γ 線20KRを照射し、M1個体の養成、M2変異個体の選抜後、系統育種法に準じて選抜、固定を図ってきたものである。

1986年には「奥羽3号」の地方番号を付して品種比較試験等に供試し、1987年以降、作物開発部資源作物育種研究室(盛岡市)で選抜を続けてきた。1994年における世代はM15である。

原品種の「岡山在来」は晩生で草丈が高く、着粒層が広く、栽培管理に難点がある品種である。

3 特性の概要

育成地における「はとひかり」の特性を表1に示す。出穂期、成熟期は中の晩に属し、「岡山在来」より早い、「はとむすめ」より遅い。成熟期における草丈は「岡山在来」より30cm短く、「はとむすめ」よりやや長い。茎数は「はとむすめ」や「岡山在来」に比べて少なく、稈径は「はとむすめ」よりやや太いが「岡山在来」よりやや細い。着粒層は「岡山在来」より7cm狭く、「はとむすめ」並で

表1 育成地における「はとひかり」の主要特性

品 種 名	はとひかり	岡山在来 (対照)	はとむすめ (比較)
出穂期 (月日)	8. 3	8.16	7.31
成熟期 (月日)	10.18	未成熟	10.12
草 丈 (cm)	148	178	137
茎 数 (本/株)	6.6	6.9	7.0
稈 径 (mm)	9.6	10.3	9.0
着粒層 (cm)	70	77	69
穀実収量 (kg/a)	33.7	24.4	35.4
対照品種比(%)	138	100	145
リットル重(g)	477	461	492
百粒重 (g)	12.2	11.2	10.2
子実歩留 (%)	59.5	57.8	62.9
穀 実 : 大小	中	中	中小
: 形	長楕円	長楕円	楕円
: 色	茶褐	茶褐	茶褐
: 硬さ	硬	中	中軟
耐倒伏性	中	中	中
脱粒性	易	易	易
葉枯病発生程度	微	無	微

注. 試験年次は1988~94年の7年間の平均。

ある。穀実収量は「はとむすめ」並であり、「岡山在来」に比べて約40%多収である。リットル重は「はとむすめ」よりやや軽い、百粒重は「岡山在来」や「はとむすめ」より重い。子実歩留は中に属し、「岡山在来」よりやや高い。穀実の形は長楕円形で、色は茶褐、光沢は良であり、「岡山在来」や「はとむすめ」と同じである。穀実の硬さは「岡山在来」より硬い。耐倒伏性や脱粒性、葉枯病に対する抵抗性は「岡山在来」や「はとむすめ」並である。茶加工適性は製品歩留が高く、加工品の品質も良好である(表2)。

表2 「はとひかり」の茶加工適性に関する調査成績(岡山県Y社)

評価項目	加工の難易	製品歩留	加工品品質	総合評価
評価	同等	高い	良	良

注. 育成地1994年産「はとひかり」と加工メーカー原料との比較。

4 普及見込み地帯における特性概要

広島県における「はとひかり」は出穂期、成熟期ともに「岡山在来」より早く、成熟期における草丈は「岡山在来」

より30cm短い、「はとむすめ」よりやや長い。着粒層は「岡山在来」並であるが、最下着粒高は「岡山在来」に比べかなり低い。殻実収量は「岡山在来」や「はとむすめ」より多収である。百粒重は「岡山在来」や「はとむすめ」より重い、リットル重は「はとむすめ」よりやや軽い。

葉枯病に対する抵抗性は「岡山在来」並である(表3)。

以上の結果から、「はとひかり」は中国地方の中・山間部で安定して成熟期に達する。また、「岡山在来」に比べ粒が大きく多収であり、最下着粒高が低いため機械収穫に適する。

表3 普及見込み地帯における「はとひかり」の生育及び収量調査成績

試験場所	品 種 名	出穂期 (月. 日)	成熟期 (月. 日)	草丈 (cm)	着粒層 (cm)	最下着粒高 (cm)	殻実重 (kg/a)	対照比 (%)	百粒重 (g)	リットル重 (g)	葉枯 程度
広島県農技 センター	はとひかり	7.17	9.29	133	63	68	38.7	109	11.2	467	少
	岡山在来	7.25	10. 9	168	71	90	35.5	100	10.1	468	少
	はとむすめ	7.19	10. 2	119	58	58	35.8	101	8.7	478	中
広 島 県 大 和 町 (現地試験)	はとひかり	8. 3	10.30	142	86	57	30.3	106	12.0	457	中
	岡山在来	8.11	11. 3	171	82	89	28.5	100	10.7	411	中
	はとむすめ	8. 1	10.25	138	68	68	29.9	105	10.1	455	中

注. 試験年次は1993~94年の平均。

5 ま と め

「はとひかり」の主要特性は次のとおりである。

- (1) 出穂期、成熟期は中の晩に属し、「岡山在来」より早い。
- (2) 殻実の収量は「岡山在来」に比べて多収である。
- (3) 成熟期における草丈は中に属し、「岡山在来」よりかなり短く「はとむすめ」よりやや長い。

- (4) 百粒重は「岡山在来」や「はとむすめ」より重い。
- (5) 着粒層は「岡山在来」より狭く「はとむすめ」並である。
- (6) 茶の加工適性は他品種と同じく良好である。
- (7) 脱粒性は「岡山在来」並の易である。
- (8) 葉枯病に対する抵抗性は「岡山在来」並である。
- (9) 適地は中国地方の中・山間部である。